



独立した第三者保証報告書

コスモエネルギーホールディングス株式会社
代表取締役社長 社長執行役員 山田 茂 殿

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社(以下、「SOCOTEC」という。)は、コスモエネルギーホールディングス株式会社(以下、「会社」という。)からの委託に基づき、会社が作成した主題情報(“ESG データ”(期間:2025年4月1日~2026年3月31日))がすべての重要な点において規準に適合しているかについて限定的保証業務を実施した。

1 主題情報と規準

保証対象となる主題情報は、“ESG データ”(期間:2025年4月1日~2026年3月31日)に記載された会社と会社の連結会社(日本国内子会社35社、海外子会社12社)における日本及び海外の運営並びに活動を対象範囲とする、“GHG 排出量、環境及び社会・安全パフォーマンスデータ”(別紙)に関する報告である。
主題情報を作成する規準は、“GHG 排出量算定手順_Ver6”である。

2 経営者の責任

“ESG データ”(期間:2025年4月1日~2026年3月31日)は、会社の経営者によって作成された。
会社の経営者は、そこで行われている主張、陳述及び主張の完全性(限定的保証を提供するために従事してきた主張を含む)、報告書内の全てのデータ及び情報の収集、定量化及び提示並びに適用した規準、分析及び公表に責任がある。
会社の経営者は、報告プロセスをサポートし、故意または過失によるものであるかどうかにかかわらず、“ESG データ”(期間:2025年4月1日~2026年3月31日)に重大な虚偽記載がないことを保証するように設計された適切な記録及び内部統制を維持する責任がある。

3 保証会社の責任

SOCOTEC の責任は、主題情報がすべての重要な点において規準に準拠して作成されているかどうかについて、限定的保証の結論を表明することにある。
SOCOTEC は、SOCOTEC の定める検証手順及び「JIS Q 14064-3:2023 (ISO14064-3:2019) 温室効果ガスに関する声明書の検証及び妥当性確認のための仕様及び手引」並びに国際監査・保証基準審議会(IAASB)の国際保証業務基準(ISA)3000(改訂)「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」に準拠し、限定的保証業務を実施した。
限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務で実施する手続と比べて、その種類、時期、範囲において限定されている。その結果、SOCOTEC が行った限定的保証業務は、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。
SOCOTEC が実施した手続は、不正又は誤謬を問わず重要な虚偽表示のリスクの評価をはじめとして、職業的専門家としての判断に基づいている。SOCOTEC の結論は、会社の内部統制に対して保証を提供するものではない。
SOCOTEC は、限定的保証における結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。



4 保証手続

SOCOTEC が実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、以下を含んでいるがそれらに限定されない。

- 会社が主題情報に関連して作成した方針や手続の評価
- 上記方針手続を理解するための会社担当者への質問
- 対象プロジェクトが適格性要件を満たしているかの確認
- 試算による根拠資料との照合、再計算
- 重要な仮定や他のデータに関する根拠資料の入手、照合
- 算定体制と手順の確認、データの収集及び記録管理の実施状況を確認するための視察先：
本社 / コスモ石油株式会社 堺製油所 / 丸善石油化学株式会社 千葉工場

5 独立性と品質管理、力量の声明

SOCOTEC は、「JIS Q 17021-1:2015(ISO/IEC 17021-1:2015) 適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項—第 1 部：要求事項」の認定要求事項に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。又「JIS Q 14065:2025(ISO 14065:2020) 環境情報の妥当性確認及び検証を行う機関の一般原則及び要求事項」に従ってマネジメントシステムを確立している。これらは国際監査・保証基準審議会による国際品質マネジメント基準第 1 号並びに国際会計士倫理基準審議会による職業会計士の倫理規定における要求を満たすものであり、倫理規則、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の遵守に関する文書化した方針と手続を含む包括的な品質管理システムを維持している。

SOCOTECグループは、検査、試験、認証業務における総合的な第三者機関であり、世界の国々で品質、環境、労働及び情報セキュリティにかかわるマネジメントシステム認証業務やトレーニングサービスを実施しており、環境、社会情報のパフォーマンスデータ及びサステナビリティ報告書保証業務を行っている。SOCOTECは、本保証業務を依頼した組織やその関連会社、ステークホルダーからも独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触がないことを断言する。

本保証業務に携わったチームは、知識や当該産業分野における経験、そして本保証業務に関する力量基準に基づき構成されていることを保証する。

6 報告書の利用

限定的保証業務におけるSOCOTECの責任は、合意した条件に基づいて会社の経営者にのみ負うものである。従って、目的にかかわらずそれ以外のいかなる個人や組織に関しても責任を負わない。

7 結論

SOCOTECが実施した手続及び入手した証拠に基づいて、主題情報が規準に準拠して作成、開示されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社
ヘッド・オブ・ベリフィケーション 福島 眞英

Masahide Fukushima

2026年6月16日
ESDT6060-1

GHG排出量、環境及び
社会・安全パフォーマンスデータ

表1 Scope別GHG排出量(コスモエネルギーグループ会社48社)

項目			数量	単位
Scope 1(内訳)	合計		6,749	千t-CO2e
	CO2排出量		6,722	千t-CO2e
	CO2を除くGHG排出量合計 ^{※1}		26	千t-CO2e
	CH4排出量		5	千t-CO2e
	N2O排出量		22	千t-CO2e
Scope 2: マーケット基準		合計	258	千t-CO2e
Scope 2: ロケーション基準		合計	261	千t-CO2e
Scope 3 (内訳)	カテゴリ-1	購入した製品・サービス	13,228	千t-CO2e
	カテゴリ-2	資本財	251	千t-CO2e
	カテゴリ-3	Scope1,2に含まれない燃料 及びエネルギー関連活動	987	千t-CO2e
	カテゴリ-4	輸送、配送(上流)	328	千t-CO2e
	カテゴリ-5	事業から出る廃棄物	46	千t-CO2e
	カテゴリ-6	出張	1	千t-CO2e
	カテゴリ-7	雇用者の通勤	5	千t-CO2e
	カテゴリ-9	輸送、配送(下流)	270	千t-CO2e
	カテゴリ-11	販売した製品の使用	55,512	千t-CO2e
	カテゴリ-12	販売した製品の廃棄	4,402	千t-CO2e
	カテゴリ-13	リース資産(下流)	12	千t-CO2e
	カテゴリ-15	投資	378	千t-CO2e
	合計			75,420

※1 CO2を除くGHG排出量の合計値は、小数点以下の値を含んだ各GHGの集計結果であり、見かけ上四捨五入された各GHGの集計結果とは一致しません。



SOCOTEC

表2 エネルギー消費量及び原単位(コスモ石油株式会社)

項目	数量	単位
製油所エネルギー消費原単位 ^{※2}	9.13	L-原油/kL
製油所エネルギー消費量	1,542	千kL-原油
製油所GHG排出量原単位 ^{※3}	23.43	kg-CO2e/kL
製油所GHG排出量	3,958	千t-CO2e
輸送部門エネルギー消費原単位:海上	14.12	L-原油/千トンキロ
輸送部門エネルギー消費原単位:陸上	35.53	L-原油/千トンキロ
輸送部門CO2排出量	251,847	t-CO2e

※2、※3 常圧蒸留装置換算通油量あたり

表3 エネルギー使用量(コスモエネルギーグループ全体)

項目	数量	単位
エネルギー使用量(熱量換算値)	111,273	TJ
エネルギー使用量(原油換算値)	2,871	千kL-原油

SOCOTEC Certification Japan : この付属書はコスモエネルギーホールディングス株式会社に対して
2026年6月16日に発行した独立した第三者保証報告書の付属書として有効な文書です。

付属書 2 / 8

ESDT6060-1



表4 水資源:取水量・排水量

項目		数量	単位
石油精製事業	取水量合計 ^{※4}	465,316	千t
	工業用水	42,045	千t
	海水	422,620	千t
	地下水	422	千t
	公共水道水	228	千t
	排水量合計	458,886	千t
石油化学事業	取水量合計	101,775	千t
	工業用水	17,694	千t
	海水	84,016	千t
	地下水	46	千t
	公共水道水	19	千t
	排水量合計	90,863	千t
グループ全体	取水量合計	570,343	千t
	工業用水	59,921	千t
	海水	509,627	千t
	地下水	481	千t
	公共水道水	314	千t
	排水量合計	551,377	千t

※4 取水量の合計値は、小数点以下の値を含んだ各取水量の集計結果であり、見かけ上四捨五入された各取水量の集計結果とは一致しません。



SOCOTEC

表5 水質汚濁負荷量

項目		数量	単位
石油精製事業	COD負荷量	97.1	t
	窒素負荷量	53.4	t
	りん負荷量	1.0	t
石油化学事業	COD負荷量	35.5	t
	窒素負荷量	27.4	t
	りん負荷量	1.2	t

表6 大気汚染排出量

項目		数量	単位
石油精製事業	SO _x 排出量	3,512	t
	NO _x 排出量	2,333	t
石油化学事業	SO _x 排出量	322	t
	NO _x 排出量	822	t

表7 大気汚染排出量、水質汚濁負荷量(製油所のみ)

項目		数量	単位
石油精製事業	SO _x 排出原単位 ^{※5}	20.6	g/kL
	SO _x 排出量	3,480	t
	NO _x 排出原単位 ^{※6}	13.3	g/kL
	NO _x 排出量	2,254	t
	COD負荷原単位 ^{※7}	0.57	g/kL
	COD負荷量	96.1	t

※5、※6、※7 常圧蒸留装置換算通油量あたり

SOCOTEC Certification Japan：この付属書はコスモエネルギーホールディングス株式会社に対して
2026年6月16日に発行した独立した第三者保証報告書の付属書として有効な文書です。

付属書 4 / 8



ESDT6060-1

表8 廃棄物(事業別)

項目		数量	単位
石油精製事業	産業廃棄物発生量	62,044	t
	再資源化量	24,135	t
	最終処分量	144	t
石油化学事業	産業廃棄物発生量	80,775	t
	再資源化量	8,985	t
	最終処分量	127	t
コスモグループ 合計	産業廃棄物発生量	145,377	t
	再資源化量	35,646	t
	最終処分量	283	t

表9 PRTR指定物質

項目		数量	単位
石油精製事業	排出量合計	135	t
	移動量合計	696	t
石油化学事業	排出量合計	320	t
	移動量合計	36	t

表10 従業員

項目	数量	単位
コスモ石油(株)	女性管理職比率 ^{※8}	8.4 %
	育児休業取得率(男性)	84 %
	育児休業取得率(女性)	100 %
	障がい者雇用率 ^{※9}	2.77 %
丸善石油化学(株)	女性管理職比率 ^{※8}	4.3 %
	育児休業取得率(男性)	80 %
	育児休業取得率(女性)	100 %
コスモ石油販売(株)	女性管理職比率 ^{※8}	— %
	育児休業取得率(男性)	25 %
	育児休業取得率(女性)	100 %
コスモエンジニアリング(株)	女性管理職比率 ^{※8}	9.1 %
	育児休業取得率(男性)	93 %
	育児休業取得率(女性)	— %

※8 2026年3月31日時点

※9 2025年6月1日時点

表11 男女間賃金格差

項目		数量	単位
コスモ石油(株)	全社員	80.0	%
	正規社員	80.2	%
	非正規社員	78.5	%
丸善石油化学(株)	全社員	69.9	%
	正規社員	70.1	%
	非正規社員	97.4	%
コスモ石油販売(株)	全社員	66.4	%
	正規社員	83.7	%
	非正規社員	82.6	%
コスモエンジニアリング(株)	全社員	86.8	%
	正規社員	86.1	%
	非正規社員	84.4	%

表12 女性活躍推進の進捗状況(コスモ石油株式会社)

項目	数量	単位
女性管理職比率 ^{※10}	8.9	%
新卒学卒女性採用比率 ^{※11}	55	%

※10 2026年4月1日時点

※11 2026年4月1日採用

表13 労働災害(コスモエネルギーグループ会社48社および協力会社を対象)

項目		数量	単位
業務上労災	休業労災	18	件
	不休業労災	61	件
通勤途上労災	休業労災	8	件
	不休業労災	9	件
合計	休業労災	26	件
	不休業労災	70	件
総合計		96	件
労働災害死者数	従業員	1	人
	協力会社社員	0	人